

目次

第30回大会関連・・・・・・・・・・	1	学会企画シンポジウム紹介・・・・・・・・	2
日中社会学会第30回大会開催にあ		大会プログラム・・・・・・・・・・	3
たって・・・・・・・・・・	1	新入会員の声・・・・・・・・・・	10
第30回大会をお受けするにあ		事務局からのお願い・・・・・・・・	11
たって・・・・・・・・・・	1		

■日中社会学会第30回大会開催にあたって

日中社会学会会長
首藤明和（長崎大学）

日中社会学会第30回大会が6月2日と3日、筑波大学（筑波キャンパス）において開催されます。石井健一大会実行委員長をはじめ、筑波大学の関係者の皆様方、ならびに学会関係者の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

いよいよ今年の大会で30周年を迎えます。今大会のプログラムもまた、たいへん充実しています。学会主催シンポジウムはもちろんのこと、自由報告部会でも多数の報告が予定されております。また、年に一回の総会も開催されます。学会運営についての意見交換を通じて、昨今の学会運営の実情に触れていただく、たいへん貴重な機会です（若手・中堅の人文社会系研究者の減少と大学での業務量増加により、国内のいずれの学会も、学会運営においてたいへん大きな課題に直面しています）。参加者皆様が一体となった活発な議論が交わされることを期待しています。

21世紀「大国」の中国。その各社会領域——政治、経済、社会、法、宗教、芸術、学問、教育、マスコミなど——では、領域相互の刺激と依存の高まりとともに、領域ごとの

展開が加速度的に深まっています。当然、各社会領域の展開は一国に止まることはなく、世界の一層の複雑化と構造的に連動しています。私たちは、中国の動向とも密接に連動する今日の世界のなかで、日々の選択を行なっています。それゆえ、中国を研究するということは、私たちの生きている世界がどのように動いており、そのなかで私たちがどのような選択をおこなっているのかを自省することにほかなりません。

中国社会と他の社会との比較は、問題と解決策との間の多様な関係の観察を促し、選択における多様な解を拓くことにつながっていきます。この度の日中社会学会大会もまた、21世紀の〈方法としての中国〉——選択における多様な解を拓いていく方法——を探求する格好の場です。

皆様のご参加をお待ちしております。筑波でお目に掛かりましょう。

■第30回大会をお受けするにあたって

第30回大会実行委員長
石井健一（筑波大学）

このたび、筑波大学にて日中社会第30回大会をお引き受けすることになりました。以前から時々打診はありましたが、昨年、会長である首藤先生より開催校がなかなか決ま

らないのでぜひ引き受けてもらえないかと言われたので、お引き受けすることになりました。日中社会学会会員には筑波大学出身の方が多くおられますが、私が入会した20年くらい前からは筑波大学で大会を開催することがなかったと思います。私自身は学部生の時には社会学を専攻していましたが、その後は社会学といえる研究をしているかどうか分からない状況であり、はたして私が社会学の大会を開催するのに適任なのかどうか自信はありません。いずれにしても、これまでは大会で発表したり論文誌に投稿したりするという気楽な立場でしたが、日中社会学会大会の開催という大役を拝命することになり身の引き締まる思いです。

■学会企画シンポジウム紹介

「中国の人口政策の転換と社会問題」

奈倉 京子（大会担当理事）

近年、中国では、これまでの社会構造や民衆の生活に大きな影響を与えうる、2つの人口政策の改革が行われた。1つは、戸籍制度改革、もう1つは、一人っ子政策の撤廃である。2014年7月、中国政府は「戸籍制度改革を更に進める国務院の意見」を発表し、戸籍制度改革に乗り出す意向を示した。民衆が平等に経済発展の恩恵を享受する機会を得られるよう、「農村」と「都市」の戸籍の区別をなくし、公共サービスを均等に提供しようとするのが、戸籍制度改革である。つづく2015年10月、中国政府は、全国人民代表大会常務委員会にて、すべての夫婦が2人目を産めるようにすることを決めたいわゆる「一人っ子政策」を撤廃する決定をし、2016年1月付で正式に施行された。

戸籍制度や一人っ子政策は、改革・開放以

降の経済の発展にともない、人々の移動が頻繁になるにつれて、様々な社会問題を生み出した。とりわけ、規制の犠牲になったのが、いわゆる「農民工子女」や「留守児童」といった農村出身の子どもたちや、「黒孩子」と呼ばれる戸籍を与えられなかった子どもたちである。さらに、こうした人口政策は、中国の家族のあり方も変えていった。少子高齢化は新たな社会問題として深刻化している。

しかし、このような人口政策は、人々の間で新たな価値観もつくりだした。現在、一人っ子世代が親となる時代となったが、子どもの教育、両親の扶養、女性のライフコース等の面で、上の世代とは異なる様相をみせている。また、家事・育児・扶養にかかわる市場は、かつての「保姆」とは異なる専門性の高い人材によって担われるようになった。

中国社会を理解するための重要なキーワードであった「一人っ子政策」と「戸籍制度」であるが、これらが転換期を迎えた今、そしてこれから、中国社会をどのようなキーワードで概念化できるのだろうか。政策転換は、他の社会制度や民衆の暮らしにどのような影響を及ぼすのか。法によって変革された事柄は、個人レベルの苦悩・ジレンマを解消していくのか。これまでの政策がつくりだした人々の価値観は変わるのか、変わらないのか。「伝統」はどのように変遷してきた（いく）のか。これらの問題について、本シンポジウムで議論してみたい。

日中社会学会第30回大会プログラム

開催日：2018年6月2日、3日

会場：筑波大学筑波キャンパス

第一エリア 1C棟 3-4階

(注) 2018年5月4日更新版。プログラムは一部変更となる可能性があります。当日会場にてご確認ください。

6月2日(土)		6月3日(日)	
		9:30	受付開始
		10:00	自由報告(Ⅱ)ー11:30 セッションD
11:00	理事会ー12:30		
12:00	受付開始	11:45	理事会ー13:15
13:00	開会式ー13:05		
13:05	自由報告(Ⅰ)ー14:35 セッションABC	13:15	自由報告(Ⅲ)ー15:15 セッションEF
14:50	学会企画シンポジウムー17:20 「中国の人口政策の転換と社会問題」	15:25	閉会式
17:25	総会ー17:50		
18:30	懇親会ー20:00 <楼外楼筑波学園店>		

6月2日(土)

12:00～ 受付開始 <第一エリア1C棟4階>

大会参加費：会員 2000 円、学生会員 1000 円、非会員 3000 円、
ただし、筑波大学生(院生・学類生)は無料

11:00～12:30 理事会 <1C402>

13:00～13:05 開会式 <1C406>

開催校挨拶：石井健一（筑波大学）

会長 挨拶：首藤明和（長崎大学）

13:05～14:35 自由報告 (I)

セッションA <1C405>

司会：李妍焱(駒澤大学)

「社会関係資本による中国人留学生のネットワーク形成—京都大学における東北育才
高校系の留学生への調査を中心に—」 吳江城(京都大学大学院)

「『幼女』カテゴリーに対する法的擬制と言説の技法—中国刑法に定められた『幼女買
春罪』をめぐる存廃論争における女性学者の言説に着目する—」 周筱(筑
波大学大学院)

「公益創投と草の根 NPO の成長—長春市南関区の事例—」 鄭南(吉林大学)

セッションB <1C406>

司会：江口伸吾(島根県立大学)

「中国都市近郊における農村観光と農村住民の『家族の都市化』—北京市市門頭溝区齋堂
鎮爨底下村を事例に—」 馮岩飛(北海道大学大学院)

「中国における帰郷農民工による農業・養殖経営の実態と変容—江蘇省中部 F 村の農家
調査に基づいて—」 李丹(京都大学大学院)

「現代中国における若年農民工の家族意識の変容—南京市での調査を事例として—」
曹家寧(九州大学大学院)

セッションC <1C306>

司会：鈴木未来(弘前大学)

「中国における社会主義的近代化とジェンダーからみた女性のライフコース研究」 坂部
晶子(名古屋大学)

「中国における女性の労働実態に関する研究—2012—2016 中国労働力動態調査 (CLDS)

の結果に基づいて」江暉(中山大學)
「日本と台湾における労災における精神疾患等の取り扱いについて—発達障害当事者からの視野から—」上村明(大阪教育大學)

14:50～17:20 学会企画シンポジウム <1C406>

「中国の人口政策の転換と社会問題」

発表者：

聶 海松(東京農工大學)「中国における人口政策の転換と効果及び高齢化への対応」

植村 広美(県立広島大學)「近年の戸籍管理制度改革に伴う入試制度改革」

劉 楠(長崎大學)「中国農村部の留守児童問題に関する研究動向と政府の取組」

于 小薇(中部大學)「中国における一人っ子政策の振り返りと今後の方向性」

討論者：南 裕子(一橋大學)

坂部 晶子(名古屋大學)

司会：奈倉 京子(静岡県立大學)

17:25～17:50 総会 <1C406>

18:30～20:00 懇親会 <楼外楼 筑波学園店>

懇親会費：一般 4500 円、学生 3500 円

6月3日(日)

9:30～ 受付開始 <第一エリア 1C 棟 4 階>

10:00～11:30 自由報告(II)

セッションD <1C405>

司会：浅野慎一(神戸大學)

「中国における日本イメージに対する SNS 利用の影響—『北京・大学生調査』に基づいて」

張騰飛(早稲田大學大学院)・景浩宇(對外經濟貿易大學)

「習近平政權下の言論統制—中国国営メディアがソーシャルメディア上における世論対策を例として」張希靚(筑波大學大学院)

「政教関係からみる習近平政権の社会政策～新宗教事務条例を中心に～」佐藤千歳(北海商科大学)

11:45～13:15 理事会 <1C402>

13:15～15:15 自由報告(Ⅲ)

セッションE <1C405>

司会：永野武(松山大学)

「近代中国東北における民族アイデンティティの規定要因—地域社会の共同体が果たす役割—」孫嘉睿(一橋大学大学院)

「『紅山文化』への認識の変容—内モンゴル中南部における民族の相克」木下みつひろ(敬和学園大学)

「越境する中国民間信仰による在日老華僑と新華僑の結束—神戸関帝廟『普度勝会』についての考察—」翁康健(北海道大学大学院)

「中国帰国者三世・四世の進路選択—家族の多様化とエスニシティの影響」坪田光平(職業能力開発総合大学校)・劉麗鳳(日本大学)

セッションF <1C406>

司会：坂部晶子(名古屋大学)

「民国期中国の慈善事業思想—熊希齡と世界紅卍字会」穂山新(法政大学)

「日中戦争下の中国ジャーナリストの日本協力—上海『申報』社長陳彬龢(ちんびんわ)と占領下の中国の新聞の役割」陶一然(立命館大学大学院)

「中国残留日本人の生成過程における協働と矛盾」浅野慎一(神戸大学)

「中国イスラーム哲学の形成—自己言及と自己産出のコミュニケーションと創発的進化の視点から」首藤明和(長崎大学)

15:25～ 閉会式 <1C406>

大会担当理事挨拶：奈倉京子(静岡県立大学)

大会実行委員長挨拶：石井健一(筑波大学)

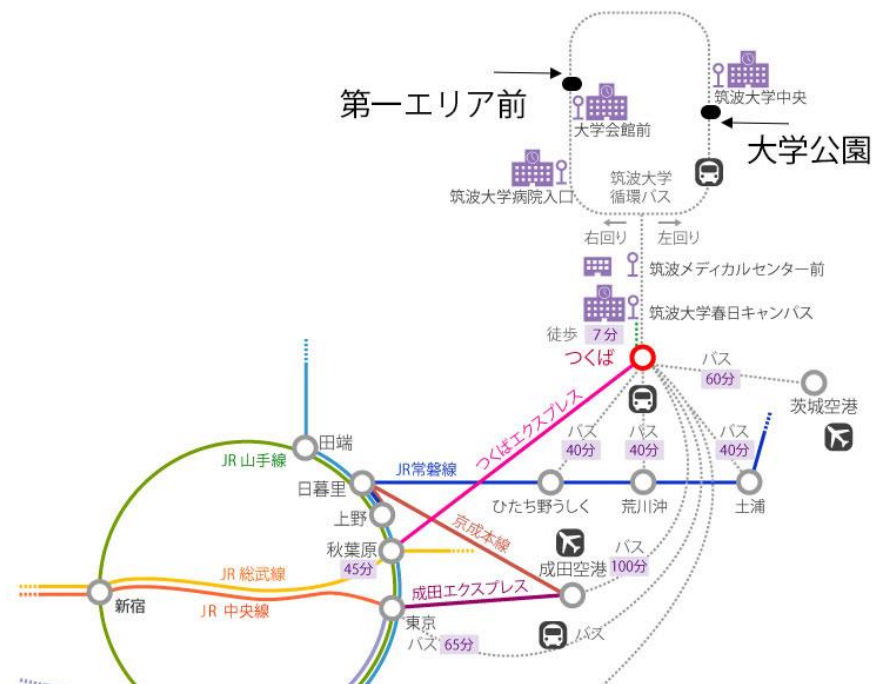
次年度大会開催校挨拶

■交通アクセス

東京の秋葉原からつくば駅までつくばエクスプレス(快速)で45分です。

成田空港・羽田空港からは、関東鉄道の「土浦・つくば～成田空港線」「つくば～羽田空港線」があります(<http://kantetsu.co.jp/bus/highwaybus.html>)。

筑波キャンパスへの交通アクセス・路線図



会場は、筑波大学第1エリア(第一学群)の1C棟(人文社会学群棟)です。最寄りのバス停は、関東鉄道バスの「第一エリア前」です。

http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html



http://shisetsu.sec.tsukuba.ac.jp/k_space/tsukuba_campus.htm

つくば駅からは、A3 出口(駅前広場北方面)から出て、6 番のバス停留所から、「大学循環(右回り)」または「筑波大学中央行き」に乗り、「第一エリア前」で下車して下さい。(「大学循環(左回り)」でも行けますが、「第一エリア前」まで行くと逆周りのために 10 分ほど遠回りとなり、最寄の停留所は「大学公園」になります。) 「つくば駅」から「第一エリア」までのバスの所要時間は、約 10 分です(バス料金は 260 円です)。

「第一エリア前」のバス停を降りたら、すぐ前の横断歩道を右に渡り、歩道に沿って歩いて下さい(上記地図)。「1C 棟建屋管理室」または「1C 棟入口」という看板があるので、ここから入ることができます。「大学公園」で降りた場合は、停留所から少し(50m 位)戻って、車が通れる道沿いに右折して進んで下さい。

学会受付の場所 第 1 エリア 1C 棟 4 階 (1C 棟は 4 階建て黄土色の建物です)

TX つくば駅から第一エリア方面のバス時刻表(土日、6 番乗り場)

	大学循環(右回り) および筑波大学中央	大学循環(左回り)
9 時	07 09 10 20 25 37 45	00 40
10 時	00 05 25 40 45	20
11 時	05 20 25 45	00 40
12 時	00 05 30 40 45	20
13 時	05 20 25 45	00 40
14 時	00 05 20 25 40 45	20
15 時	05 20 25 45	00 40
16 時	00 05 25 40 45	20
17 時	05 20 45	00 40
18 時	00 05 40 40	20
19 時	15 20 55	00 40
20 時	00 35 40	20
21 時	20 40	00 40
22 時	00 35	20

最新情報はこちら→

<http://kantetsu.jorudan.biz/?p=d&sc=41616&pn=6&v=&b1=%E3%81%A4%E3%81%8F%E3%81%B0%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC&m=b>

第一エリア前から TX つくば駅方面のバスの時刻表(土日)

12時	00 12 32 40 52
13時	12 20 32 52
14時	00 12 32 40 52
15時	12 20 32 52
16時	00 12 32 40 52
17時	12 20 47
18時	00 22 40 52
19時	20 42
20時	00 22 39
21時	02 19 59
22時	02 39

上記には「土浦行き」と「大学循環」がありますが、すべて TX つくば駅を通ります。

■タクシー

TX つくば駅から会場まで 1400 円前後です。大学から乗るときは、電話でタクシーを呼んでください。大曾根タクシーTEL：0298640301，松見タクシーTEL：0298511432

■駐車場

大学の駐車場は利用できないので、駅周辺の駐車場をご利用下さい。

■宿泊施設および食事について

つくば駅(つくばエクスプレス)周辺には、いくつかホテルがあります。つくば駅から最も近いのが以下の二つです。

- (1) ダイワロイネットホテルつくば (029-853-3755)
- (2) 「オークラフロンティアホテル」(本館 029-861-1166)「筑波大学での学会利用」で申し込むと「朝食込みシングル 9000 円」ということです。
- (3) その他のホテルとしては、オークラフロンティアホテルつくば(エポカル)がつくば駅から徒歩圏内であり、また隣の駅の「筑波学園前」には、「東横 INN」「ホテルベストランド」「ホテルマークワンつくば研究学園」などがあります。

昼食については、土曜・日曜は大学内の食堂は閉まっていますのでお弁当を持参されることをお勧めします。会場から南東方向に 10 分ほど歩いた場所にはレストランが数軒あります。コンビニエンスストアも同じエリアで 10 分程度かかるところにあります。

■その他(コインロッカー・観光案内所)

つくば駅周辺のコインロッカーは、三箇所あり、(1)つくば駅の改札口を出てすぐのベンチの左側 (2)駅ビル「つくばクレエスクエア Q't」の 1 階「コクミンドラッグ」の横(10:00-20:00)、

(3)大学へのバス停前にある「つくば総合インフォメーションセンター」内にあります。観光案内所は、つくば駅のバス停の前にあります。

■懇親会

つくば駅に隣接した駅ビル(MOG)3階の「楼外楼 学園店」(tel:029-856-3737)で6月2日の18:30から開催します。TXつくば駅のA5出口から約3分です。懇親会の参加費用は、一般4500円、学生3500円です。

■大会出欠確認のお願い

昨年より、大会出欠のご予定は、web上で入力していただくことになりました。学会HPに特設ページが設置されますので、そこから入力をお願いいたします(メールマガジンでも入力のご案内を再度いたします)。その際にパスワードが必要となります(ニューズレター会員用閲覧ページと同一のパスワードです)。

下記のホームページのリンクから大会および懇親会の出席について、ご連絡ください。

<http://www.japan-china-sociology.org/?p=929>

懇親会への出席を希望される方は、5月28日までに上記サイトより出席を連絡してください。

参加費 会員2000円、学生会員1000円、非会員3000円、筑波大学生(院生・学類生)無料

■資料配布コーナー、書籍販売コーナー、研究機関紹介コーナーの設置のお知らせ

大会期間中に、上記のコーナーを設置いたします。会員の皆様の研究交流の場としてご利用下さい。場所は、当日、受付にお問い合わせください。なお、書籍販売にあたっては、受付での代金領収、領収書発行はいたしかねますので、予めご了承下さいますようお願いいたします。

■新入会員の声

周 筱 (シュウ シュウ)

所属：筑波大学人文社会科学研究科公共政策専攻

研究領域：法社会学, 社会病理, 子どものセクシュアリティ

自己紹介：私は、中国で法学を学習するさいに、法の「内部」では観察しきれないところがあると気づき、その答えに近い法社会学者の著書を拝読したあと、社会学の知識を習おうと決意しました。まだ未熟なまま研究を行っていますが、こ

れからも社会学の道で法律に臨む諸問題を解明しようと努力します。

孫 嘉睿 (ソン カエイ)

所属：一橋大学大学院社会学研究科 博士後期課程

研究領域：中国の少数民族

自己紹介：私は、近代中国東北における民族アイデンティティの重層性について研究してきました。これからの研究では、台湾に移住した満族を取り上げ、1949年以降の民族生成の過程と民族アイデンティティをみていきます。日中社会学会の

優秀な学者方を見習いながら、日中両国の架け橋のような研究者を目指して努力していきます。

翁 康健 (オウ コウケン)

所属：北海道大学大学院・文学研究科 修士課程

研究領域：宗教社会学、華僑華人

自己紹介：私は中国の福建省出身です。福建省は民間信仰が色濃い地域で、私自身も小さな頃から民間信仰に親しんできました。今思い返せば、実は民間信仰は人々の生活と密接に関わっていることに気づきます。その魅力を感じ、関心を持つようになりました。そういった経緯で、現在は宗教社会学の視点から民間信仰が中華圏の華僑華人にとってどのような意味があるのかを研究しています。

馮 岩飛 (ヒョウ ガンヒ)

所属：北海道大学国際広報メディア・観光学院観光創造専攻博士後期課程

研究領域：中国における農村観光

自己紹介：私は生まれも育ちも中国の農村でした。来日して6年が経とうとしていますが、学生生活を送りながら常に心にあるのは、若者が少なくなり、疲弊しつつある故郷の存在です。自分の力で、故郷をよりよいところになりたいと思います。

齊 龍 (サイ リュウ)

所属：明星大学大学院

研究領域：高齢者福祉・在宅介護・家族介護者支援

自己紹介：明星大学大学院の人文学研究科社会学専攻博士後期課程に所属する齊龍と申します。高齢者を介護する家族介

護者の介護負担問題に対して非常に興味があり、現在家族介護者への支援についての研究を行っております。

吉 琛佳 (ジー チェンジャー)

所属：京都大学大学院文学研究科

研究領域：理論社会学・社会思想史

自己紹介：西洋由来の社会学理論の東アジア社会における受容・ハイブリッド・変容のプロセスに関心を持ちます。日本と中国の社会学理論の展開を比較知識社会学的な視点から考察してきました。

■事務局からのお願い

□メールマガジンは届いていますか？

本学会では、メーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。

メールマガジンを受領されていない方、また、メールアドレスに変更のあった場合は、事務局までお知らせください。

□情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

□異動、住所変更の際はご一報を！

新年度となり、異動、住所変更のあった方は、新しいご所属、メールアドレス、郵便物送付先等の情報を事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

日中社会学会ニュースレター No.79

編 集：松木 孝文（大同大学）

発 行：日中社会学会事務局

〒186-8601 東京都国立市中 2 - 1
一橋大学・南裕子研究室

Info # #japan-china-sociology.org

（# #を@に変更してください）

tel: 042-580-8810（研究室直通）

fax: 042-580-8799（共同研究室の
ため南宛を明記してください）

○日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801

加入者名：日中社会学会

○日中社会学会・公式 HP

<http://www.japan-china-sociology.org/>

発行日：2018年5月